

ブルーノ・タウト没後80年

ドイツで記念展示会

<下>

お茶の水女子大名誉教授 田中 辰明

ブルーノ・タウトは1880年、東プロシヤのケーニクスベルク(現在のロシア領カリニングラード)に生を受けた。マクデブルクの役人として建設活動に尽力した。当時「アルプス建築」という表現主義の画集を発表し、ドイツ表現主義の旗頭となった。1920年代にベルリンに労働者の健康を考えた集合住宅を

1万2千戸建設し、社会主義の建築家として名を馳せた。

これらのうち、4つの住宅団地(ジードルンクと呼ぶ)が2008年に

て来た。日本では思うような建築活動を行えず「建築家の休日」と自嘲し、高崎の少林山だるま寺の庵「洗心亭」にこもった。

そして日本文化を紹介する著作活動に専念した。中でも桂離宮や伊勢神宮を称賛した「日本美の再発見」は有名である。日本に現存するタウト設計の再会で、筆者の訪問を喜

タウト設計の旧宅訪問

ユネスコ世界文化遺産に登録されている。しかし、モスクワで活動してきた理由に、台頭してきたナチスににらまれ、1933年に憧れていた日本へ亡命のような形でやっ

計の建築物は熱海市の旧日向別邸だけである。1936年にトルコのイスタンブール芸術アカデミーから教授の聲がかかり、トルコへ移住した。アタチュルク大統領に信認

んでいただいた。タウトの1914年の作品で出世となったガラスの家を彷彿させるブロックが使用されている。内部の色は原色を用い日本人に

はきつい感じもするが、

冬に日の出も遅く、夕暮れも早い北ドイツでは似

合う配色である。

(東京都杉並区)



原色が各所に用いられているタウト設計の旧宅の内部

寄稿